

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 1年次生 杉谷 京子

1. はじめに

この度、本学の国際交流基金の助成を受け、2018年2月26日から3月10日までオーストラリアニューサウスウェールズ州のキングスクリフにて、本学の学生14名で薬学・語学研修を行いましたので報告いたします。滞在中は、ホームステイをしながら North Coast TAFE Kingscliff Campus にて勉強しました。



図 1 TAFE

2. 事前研修会

今回の研修では、より充実したものとするために、渡航前に近畿日本ツーリストの方による研修会が行われました。研修会では、本研修終了後のビジョンとそれに向けての行動目標を設定し、それを発表するワークショップなどが行われました。また、ホームステイをするうえでの心構えや注意点なども教えてもらいました。

3. 現地研修校 TAFE と語学クラスについて

TAFE は高等職業訓練専門学校のことであり、美容師・調理師などになるためのコースや留学生を対象とした英語コースなどがあります。私たちは、参加者のみんなで英語の授業を受けました。授業といっても堅苦しいものではなく、アットホームな雰囲気、ゲームなどを通して楽しく英語を学ぶことができました。



図 2 語学クラス

4. 薬学クラスについて

薬学クラスでは、薬学の授業の受講に加え、実際に薬局も訪問しました。薬学の授業は、理解できるか不安だったのですが、先輩のサポートもあり、話についていくことができました。私が特に驚いたことは、日本では処方せんの有効期限が4日間であるのに対し、オーストラリアではそれが1年間であるということです。つまり、薬剤師が医師の判断なしで患者さんの薬の服用量について決定しなければならないということで



図 3 薬局の様子

です。これは日本の薬剤師の役割しか知らなかった私には、とても新鮮でした。薬局訪問については2店舗ほど伺ったのですが、どちらの薬局も薬だけでなく化粧品や日用品なども売っていました。インフルエンザのワクチンが打てたり、患者さん一人一人に対して薬を保管するサービスがあったりと日本の薬局と異なる点が多くあり興味深かったです。

5. ホームステイについて



図 4 ホームステイ先の近くのビーチ

私のホストファミリーはいつも笑顔の絶えないご夫婦でした。とても陽気でおおらかな2人で、本当の家族のようにすっかりと打ち解けることができました。朝は、海辺を一緒に散歩し、夜はホストファーザーの作ってくれた美味しいご飯を食べて、テレビを観たりおしゃべりしたりとのんびり過ごさせてもらいました。週末には、バイロン・ベイという観光地に連れて行ってもらったり、パーティーに参加させてもらったりしました。

6. おわりに

今回の研修は私にとって初めての海外留学・ホームステイでした。留学するぞ、となったものの、渡航前には「私の英語は通じるかな」「知らない人と2週間も、うまくやっていけるかな」と不安に感じることもありました。しかし、事前研修会でツアーガイドの方から「オーストラリアの方はほんとに温かくて優しいから、安心して飛び込んで！！最初の3日間がカギを握っているよ！」というアドバイスを受けました。ホームステイ中、ホストファミリーに話しかけてもいいのかなと躊躇することもあったのですが、そのアドバイスを思い出し、ちょっとした勇気を出して話しかけると、2人とも喜んで話に乗ってくれました。私たちは毎晩深夜になるまで、映画やタレントの話から宗教や地球環境問題に至るまでたくさん話をしました。3人で冗談を言って笑いあったり、意見交換をして共感があったりしたことは、私の中で1番大切な思い出です。私は英語を話すとなるとつい身構えてしまうのですが、今回の研修を通して「英語を話すことって本当はこんなにも楽

しいのだ！」ということに気付きました。それはやはり、実際にオーストラリアに飛び込んで、生きた英語に触れたからではないでしょうか。大げさかもしれませんが、今回の経験はこれからの自分を支えるかけがえのないものとなりました。

最後にはなりましたが、この研修に参加するにあたって、手厚くサポートして下さった学生課の皆様に御礼申し上げます。ありがとうございました。